

映画で学ぶ 情報を見極める力 / 第7回

『ソーシャル・ネットワーク』授業ガイド

プライバシーと同意 —— 「つながる力には、光と影がある。」

教員用・指導資料（対象：高校生以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	プライバシーと同意（SNSの誕生と、「つながる」ことの光と影）
教材映画	『ソーシャル・ネットワーク』（原題 The Social Network／2010年・アメリカ／監督：デヴィッド・フィンチャー）
対象	高校生以上。日本でPG12（飲酒・薬物・性的な会話などの場面を含む）
時間	標準100分（50分×2）。上映120分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	同意のない写真の利用／プライバシー／SNSの光と影／実在の人物を描いた映画の脚色
ねらい	SNSの始まりにあった問題を身近な情報モラルと結びつけ、写真や個人情報を扱うときの「同意」の大切さを理解する
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／学校の情報モラル資料（あれば）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ PG12作品・実在の人物の扱い

日本でPG12の作品で、飲酒・薬物・性的な会話などの場面を含みます。実在の人物・企業を描いていますが、多くの脚色があります。

- 上映は場面を選んで行う（フェイスマッシュの場面、サイトが広がる場面など）。
- 映画の人物像を実在の人物の本当の姿として教えない（本人も事実と違うと語っている）。
- 特定の企業やサービスを一方的に批判する授業にしない。
- 情報モラル（写真の無断利用、プライバシー）の学習と組み合わせる。

📄 レイティング・著作権について

- 日本ではPG12（12歳未満は保護者の助言・指導が必要）。配信版・ソフトの表示もご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 SNSの誕生と「最初のサイト」（予備知識）

「最初のサイト」の問題

2003年、ハーバード大学の学生マークは、学内の女子学生の写真を本人の許可なく集めて比べるサイト「フェイスマッシュ」をつくり、大問題になりました。サイトは一晩で多くの学生に広まり、大学のネットワークにも負担をかけました。見る側の「おもしろさ」と、写真を使われた側の気持ちには大きな差があります。

Facebookの誕生と争い

その後マークは、親友エドゥアルドの資金協力を得て、大学生どうしがつながるサイトを立ち上げ、世界的な企業へと成長させます。しかし「アイデアを盗まれた」と訴える双子の学生、会社から外されていく親友との2つの訴訟に巻き込まれていきます。

💡 映画と事実の違い

原作はベン・メズリックのノンフィクション本ですが、**ザッカーバーグ本人は取材に協力しておらず**、映画の多くの点、とくに「動機」の描き方が事実と違うと語っています。特集第5回『アルゴ』と同じく、「実在の人物を描いた映画＝その人の本当の姿」ではないことを確認してください。

SNSの「光」と「影」（板書用）（板書用）

光：人と人をつなぐ

遠くの人とも、共通の趣味の人とも、簡単につながれる。

光：声を届ける

誰でも、情報や意見を発信できる。

影：プライバシー

写真や情報が、本人の知らないところで広がる可能性がある。

影：比べてしまう

「いいね」の数やランキングで、人を比べてしまう。

🎯 この授業の到達目標

SNSの光と影を具体的に説明でき、写真や個人情報を扱うときの「同意」の大切さを、自分の生活に結びつけて考えられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「友だちの写真を投稿するとき、本人に聞いている？」と問う（挙手などで軽く）。
10-20分	背景	Facebookの誕生と、映画には多くの脚色があることを説明。
20-48分	映画を観る①	フェイスマッシュをつくる場面、一晩で広がる場面（クリップ）。
50-70分	映画を観る②	サイトが成長する場面、親友との対立の場面（クリップ）。
70-88分	ワーク記入	SNSの光と影を整理し、「同意」について考える。
88-100分	共有・まとめ	板書「つながる力には、光と影がある。」で締める。

🌱 まとめ

友だちの写真を本人に聞かずに投稿する、ランキングをつけて面白がる——SNSの始まりにあった問題は、今も身近にあります。映画の主人公は、世界中の人をつなげながら、身近な人とのつながりを失ってしまいました。つながる力の光と影を、自分ごととして考えてください。

5 映画の背景知識

原題／邦題	The Social Network／ソーシャル・ネットワーク
製作年・国	2010年・アメリカ。上映120分。日本公開：2011年。日本ではPG12
監督・脚本	監督：デヴィッド・フィンチャー（『セブン』『ファイト・クラブ』）／脚本：アaron・ソーキン
受賞	アカデミー賞 脚色賞・作曲賞・編集賞
原作	ベン・メズリックのノンフィクション本（ザッカーバーグ本人は取材に協力していない）

主なキャストと役柄

- ジェシー・アイゼンバーグ（マーク・ザッカーバーグ役）：頭の回転が速く、人との関係が不器用な天才として描かれる。
- アンドリュー・ガーフィールド（エドゥアルド・サベリン役）：マークの親友で、最初の資金を出した共同創業者。
- ジャスティン・ティンバーレイク（ショーン・パーカー役）：マークに大きな影響を与える起業家。

🎵 アカデミー作曲賞の音楽

音楽は、ロックバンド「ナイン・インチ・ネイルズ」のトレント・レズナーとアッティカス・ロスが担当しました。電子音を使った緊張感のある音楽です。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. フェイスマッシュの問題は、何だったのだろう？

→ 同意のない写真の利用、人を比べて評価すること。使われた側の気持ちに注目させる。

Q. 主人公は、世界中の人をつながけながら、なぜ身近な人とのつながりを失ったのだろう？

→ 映画の描き方であり脚色もあることを前提に、「つながる」ことの皮肉を考えさせる。

Q. 自分たちのSNSの使い方で、気をつけたいことは？

→ 写真の投稿前に本人に聞く、個人情報を出さないなど、具体的な行動に落とし込む。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- SNSの光と影を、映画の場面と自分の生活の両方から説明できているか。
- 写真や個人情報を扱うときの「同意」の大切さを理解できているか。
- 映画の人物像を、実在の人物の本当の姿と混同していないか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	羅生門	証言はなぜ食い違うのか	中学生～
2	市民ケーン	メディアを持つ者の力	中学生～
3	父親たちの星条旗	一枚の写真がつくる「物語」	中学生～
4	スポットライト 世紀のスcoop	一次情報と裏づけ	高校生～
5	アルゴ	実話映画の脚色	中学生～
6	JFK	事実と主張を見分ける	高校生～
7	ソーシャル・ネットワーク	プライバシーと同意	高校生～
8	監視資本主義：デジタル社会がもたらす光と影	SNSのしくみを知る	中学生～

8 参考資料（主な出典）

ソーシャル・ネットワーク 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

作品：映画『ソーシャル・ネットワーク』（2010年、監督デヴィッド・フィンチャー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。